

## 第4章 公共交通の目指すべき将来像

### 4-1 計画の基本理念と基本方針

#### 1) 計画の基本理念

本市の公共交通の課題や本市が目指す将来のまちの姿と方向性を踏まえて、本計画の基本理念を次のように定めます。

人・まちをつなぎ、にぎわいを運ぶ、  
未来へとつながる 公共交通体系の確立  
～みんなで支える 誰もが移動しやすいまち“ふくしま”～

本市の公共交通の維持・活性化に向けて、行政や交通事業者に加えて、関係団体や住民などが様々な立場で主体的に参加していくことが重要となります。多様な関係者が積極的に意見交換を行いながら持続可能性を模索し、まちのにぎわいに資する新たな移動の価値を創出します。

また、本市は商業・行政・教育・文化など都市機能が集積する県都として、市民をはじめ周辺市町村の住民や国内外からの観光客及びビジネス客など誰もが移動しやすい公共交通の実現を目指します。

## 2) 計画の基本方針

本計画の基本理念を実現に向けて、「利便性」「まちづくり」「持続可能性」の視点から3つの基本方針を設定します。

### 基本方針1 誰もが利用しやすく、地域の暮らしを支える公共交通の構築

公共交通は、市民生活・経済活動の前提となる基盤であり、自家用車に過度に頼らなくても日常生活に不自由が無いよう、公共交通のサービスを維持・確保します。

既存の公共交通網の効率化を図りながら、わかりやすい情報提供等により利便性を向上させていくとともに鉄道駅や路線バス停留所から一定の距離があり公共交通機関を利用し難い地域においては、通院や買い物など暮らしを支える移動手段を市民共創により検討し、地域の特性や移動ニーズに合った公共交通サービスを確保します。

### 基本方針2 都市の交流・活力・魅力向上に資する公共交通の構築

本市は、人口減少社会のなかでも持続可能な都市づくりをしていくため、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを進めています。

県都として行政・教育機関や企業が多く立地し観光地も擁する本市には、周辺市町村や県外からも多くの人を訪れ、また、まちなかでは賑わいを創出するイベントが多く開催されており、まちづくり、都市の交流・にぎわい創出の観点からも公共交通機関の役割が増しています。

目指す将来のまちづくりや市内外からの来訪者の移動を支える公共交通網を維持・強化するとともに、都市のにぎわい創出につながる施策と交通政策を連動させながら、移動自体が目的となるようなワクワク感のある移動手段の提供を目指します。

### 基本方針3 安全安心で持続可能な公共交通の構築

本市は共生社会の実現を目指しており、高齢者、障がい者をはじめ誰もが安全安心に公共交通機関を利用できるよう、公共交通機関のバリアフリー化が求められています。

また、近年、激甚化・頻発化する自然災害へ備えた安全な輸送体制が必要となっています。交通事業者と連携し、交通施設、車両等のバリアフリー化を推進するとともに、計画的な施設の修繕や安全対策を行うことにより、災害に強い安全な輸送体制を構築していきます。

各交通事業者では、乗務員不足等の課題を抱えている一方で、環境負荷低減への取組も求められています。運行の効率化や人材確保を図っていくとともに、ゼロカーボンシティの実現に向けた環境負荷の低減などにも取り組み、持続可能な公共交通を目指します。

## 4-2 計画の目標

「地域公共交通の基本的な方針」に即しつつ、公共交通を取り巻く課題を解決するため、計画最終年度（2027年度）における公共交通の目標を設定します。

### 基本方針1 誰もが利用しやすく、地域の暮らしを支える公共交通の構築

#### 目標1 利用者にとってわかりやすく、利便性の高い公共交通サービスを維持・向上します

- 日常生活を支える移動手段を確保していくため、高頻度運行や等間隔運行・パターンダイヤの導入等により公共交通の利便性向上を目指します。
- 誰もが利用しやすく、利用者目線に立ったわかりやすい公共交通の情報提供に努めます。
- 我が国の動向を見据えつつ、公共交通のDX<sup>\*</sup>を積極的に検討します。

#### 目標2 多様な主体の連携により、地域の特性にあった移動手段を確保します

- 公共交通空白地域では、市民や交通事業者、団体・企業等との共創により、地域特性や移動ニーズを踏まえた地域主体の小さな交通の導入を目指していきます。
- 移動手段を検討するにあたっては、既存の公共交通のみならず、福祉輸送・スクールバス等、医療・福祉、教育など他分野サービスとの連携も図っていきます。

※「DX（デジタルトランスフォーメーション）」とは、デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること

### 基本方針2 都市の交流・活力・魅力向上に資する公共交通の構築

#### 目標3 目指す将来のまちづくりに資する公共交通ネットワークを形成します

- コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりに資するため、「福島市立地適正化計画」で定める都市機能区域と居住推奨区域の機能に応じた公共交通網を維持・強化します。
- ふくしま田園中枢都市圏の活力・維持に資する広域交通について、圏域市町村とともに維持・活性化を推進します。

#### 目標4 観光、出張、移住者等市外からの来訪者の移動を支える公共交通ネットワークを形成します

- 市外からの初めての来訪者、移住者等にとって、迷わずに利用できる情報の提供や環境の整備を推進します。また、広域的な移動を支える交通の利便性の向上を図ります。

#### 目標5 移動自体が目的となるようなワクワク感のある公共交通サービスを提供します

- イベントと連携した公共交通機関の活用により、シティプロモーション<sup>\*</sup>やモビリティ・マネジメント<sup>\*</sup>の企画・展開を進めます。
- 人気コンテンツとのコラボレーション等により、移動自体が目的となるような公共交通サービスの提供を検討していきます。

※「シティプロモーション」とは、ある地域の認知度向上やブランド力向上を目的として行われる広報活動

※「モビリティ・マネジメント」とは、1人1人のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向（過度な自動車利用から公共交通等を適切に利用する等）に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策のこと。

### 基本方針 3 安全安心で持続可能な公共交通の構築

#### 目標 6 高齢者、障がい者をはじめ誰もが安全安心に利用できる環境を構築します

- 共生社会の実現に資するため、交通事業者と行政が連携し、公共交通機関のバリアフリー化を推進します。また、運転免許返納後の高齢者が安心して公共交通を利用できる環境を整備します。
- 近年、激甚化・頻発化する自然災害に対して、計画的な施設の修繕や安全対策により、災害に強い輸送体制を構築するとともに、万が一被災し運休した場合の迅速な代替輸送や情報発信・共有体制を確保します。

#### 目標 7 環境に優しく、持続可能な公共交通を実現します

- 地域の実情や公共交通の利用状況に基づき需要の少ない路線や、交通事業者が維持していくことが困難な路線・区間等については、再編や車両のダウンサイズ化などにより運行の効率化を図ります。
- ゼロカーボンシティの実現に向け、交通事業者と行政が連携し環境負荷の低い車両等の導入を検討し、公共交通のGXを推進するとともに、市民や市内の就労者・就学者等への公共交通機関の利用を促進します。

基本理念  
 人・まちをつなぎ、にぎわいを運ぶ、未来へとつながる公共交通体系の確立  
 ～みんなが支える 誰もが移動しやすいまち “ふくしま”～

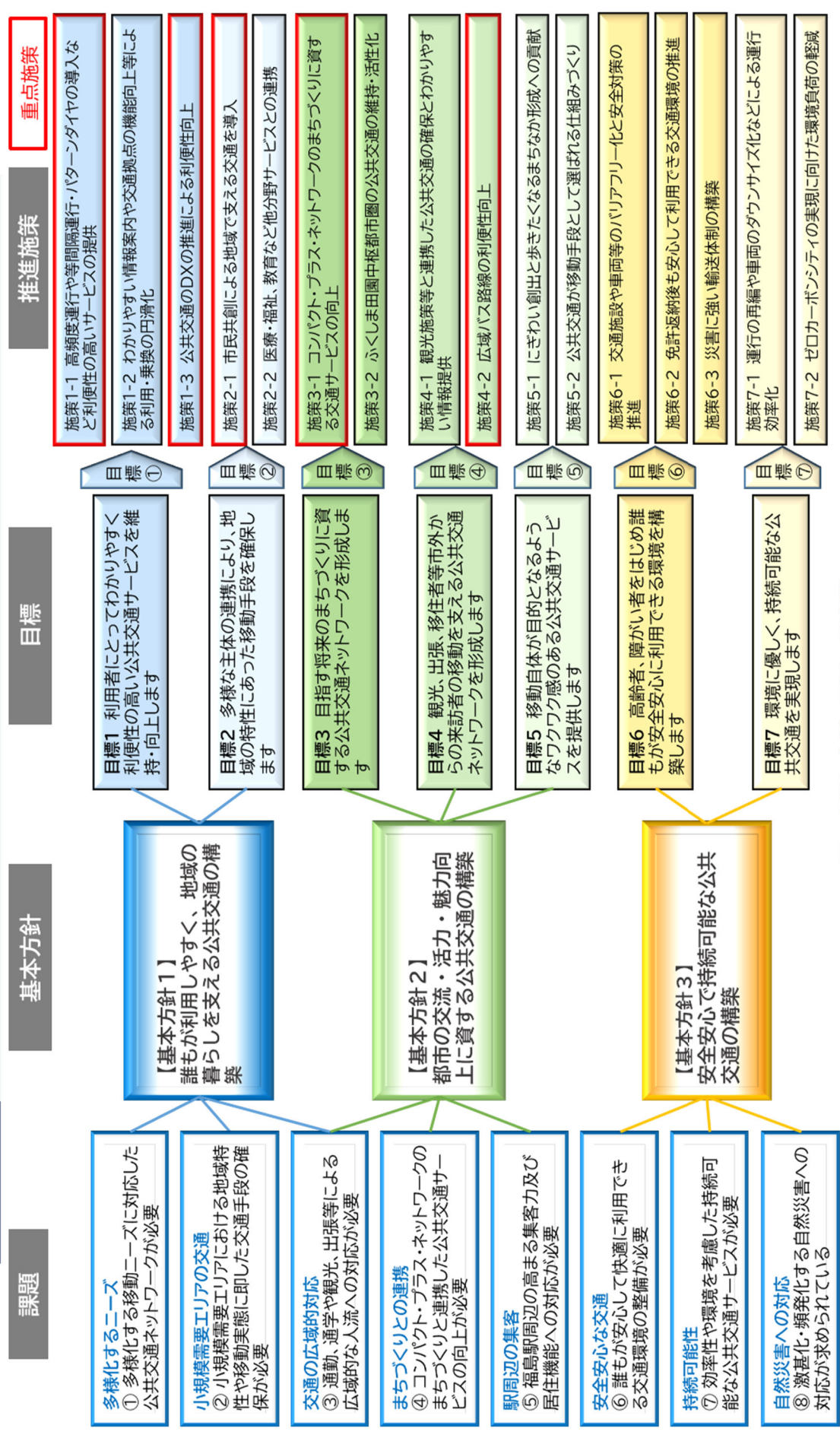


図 課題-方針-目標-目標の関係性

## 4-3 目指すべき公共交通ネットワーク

### 4-3-1 公共交通ネットワーク形成の考え方

持続可能な公共交通の実現に向けて、多種多様な公共交通機関を有効活用した階層性のある一体的な公共交通ネットワークの形成を目指します。

運行状況や都市構造などを考慮し、広域交通から支線交通まで各ネットワークにおいて、役割に応じた機能を確保することが必要です。

公共交通ネットワーク形成の考え方	
①	複数の公共交通機関の乗換機能を担う「交通拠点」の機能を強化する
②	市域または市内の地域を跨ぐ広域的な移動を担う「広域交通」を維持・活性化する
③	まちづくり上の骨格を形成する「幹線軸」の利便性を維持・向上する
④	地域内で完結する移動や地域外への移動を担う「支線交通」の利便性を確保・向上する
⑤	「都市機能区域」及び「居住推奨区域」の機能に応じた公共交通ネットワークを形成する

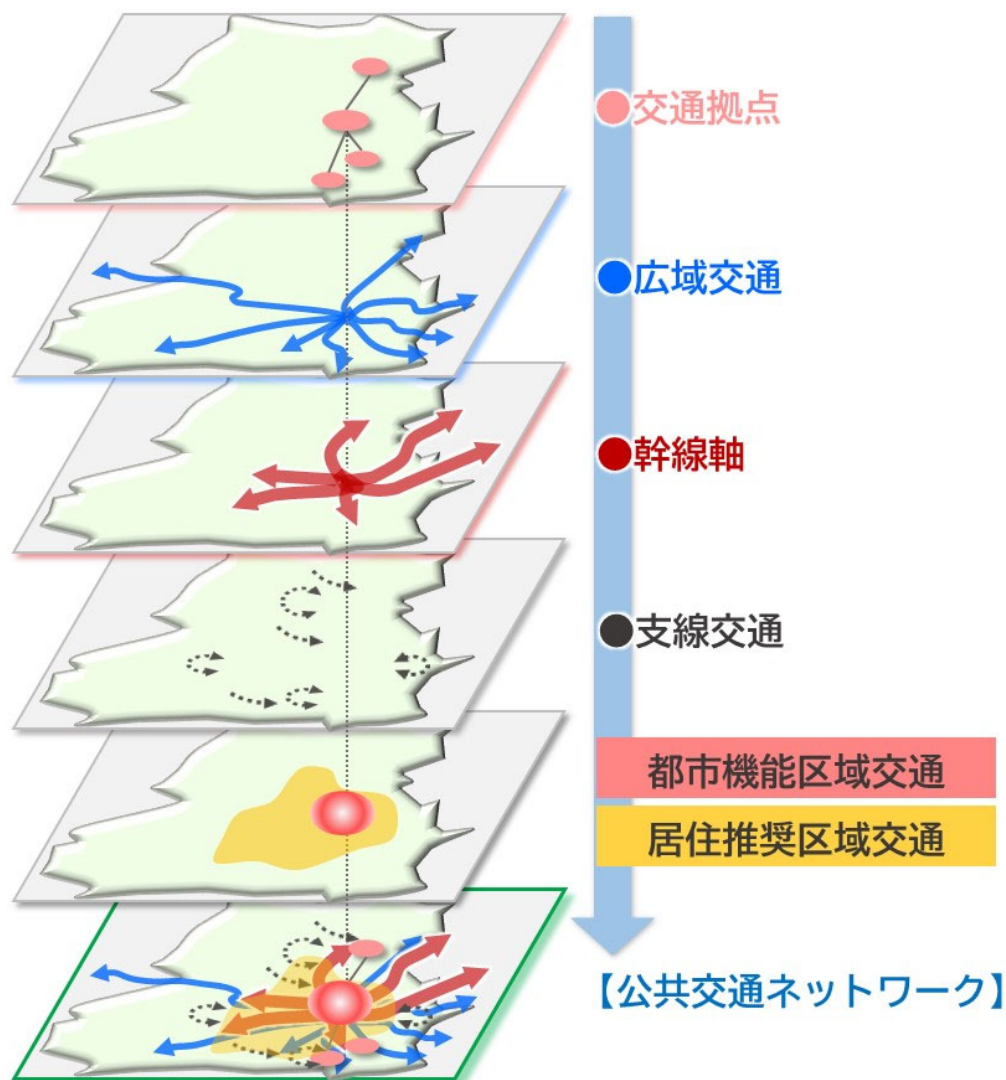


図 階層性のある公共交通ネットワークのイメージ

## 4-3-2 公共交通ネットワークの階層化

### 1) 拠点の位置付け

表 交通拠点の概要

種別	拠点の機能	拠点名	備考
一次 拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島市の玄関口、都市機能が集積する中心市街地</li> <li>・鉄道・幹線・一般路線が集中する交通ターミナル</li> </ul>	福島駅	—
二次 拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線軸と支線交通等の乗継拠点</li> <li>・市民の生活・交流機能を備えた拠点</li> </ul>	飯坂温泉駅	福島交通飯坂線（幹線軸）と路線バス（支線交通）の乗継拠点
		医大病院	路線バス（幹線軸）と路線バス（支線交通）の乗継拠点
		松川駅	鉄道、路線バス（支線交通）乗合タクシー（支線交通）などの乗継拠点

### 2) 公共交通ネットワークの位置付け

#### ① 公共交通ネットワークの役割

表 公共交通ネットワークの体系

種別	役割	交通モード
広域交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市域又は市内の地域を跨いだ広域的な移動を担い、周辺市町と市内各地域、中心部を結ぶ路線</li> <li>・市内郊外部の生活拠点や観光地と中心部を結ぶ路線</li> </ul>	鉄道
		路線バス
幹線軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在及び将来の人口分布状況から一定の需要が見込まれる路線・区間</li> <li>・まちづくりとの観点から都市計画と連携し骨格となる路線・区間</li> </ul> ※広域交通と路線・区間が重複する場合がある	鉄道
		路線バス
支線交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の日常生活を支え、広域路線、幹線に接続し域外への移動を支える路線・区間</li> </ul>	路線バス
		タクシー
		コミュニティバス
		小さな交通

## ② 広域交通の概要

表 広域交通の概要

	広域交通	経由地・方面	交通モード
周 辺 市 町	東北本線	二本松～福島駅～伊達～桑折～国見	鉄道
	奥羽本線	福島駅～米沢	鉄道
	阿武隈急行線	福島駅～瀬上～保原～梁川	鉄道
	桑折・国見方面	福島駅～伊達～桑折～国見	路線バス
	保原・梁川方面	福島駅～保原～梁川	路線バス
	霊山方面	福島駅～霊山	路線バス
	川俣方面	福島駅～小倉寺～川俣	路線バス
市 内	二本松方面	福島駅～医大病院～金谷川～二本松	路線バス
	飯野町方面	福島駅～飯野町	路線バス
	土湯温泉方面	福島駅～佐倉～土湯温泉	路線バス
	高湯温泉方面	福島駅～上姥堂～高湯温泉	路線バス
	信夫方面	福島駅～信夫	路線バス

## ③ 幹線軸の概要

表 幹線軸の概要

路線	起終点・方面	交通モード
北信幹線軸	福島駅～（仮称）イオンモール北福島方面 <sup>※1</sup>	路線バス
月の輪台幹線軸	福島駅～保原駅 <sup>※1</sup>	鉄道（阿武隈急行線） 路線バス
蓬萊幹線軸	福島駅～医大病院	路線バス
西幹線軸	福島駅～西方面 <sup>※2</sup>	路線バス
庭坂幹線軸	福島駅～庭坂方面 <sup>※2</sup>	鉄道（奥羽本線） 路線バス
飯坂幹線軸	福島駅～飯坂温泉駅	鉄道（飯坂線）

※1 周辺市町村や交通事業者等の各種関係者との協議・調整を行いながら詳細を検討します。

※2 西方面、庭坂方面の起終点となる拠点については検討中。



#### ④ 支線交通の概要

表 支線交通のイメージ

種類		内容
路線バス		路線やバス停、運行時刻を定めて定時・定路線で運行するバス
乗用タクシー		ドア to ドアのきめ細かい移動サービスを提供するタクシー
コミュニティバス		路線バスで対応できないニーズに応えるため、市や地域が主体的に計画し、定時・定路線で運行するバス
小さな交通	乗合タクシー 乗用タクシー ミニバス	市や地域が交通事業者と連携して提供する、定時・定路線やデマンド型など地域のニーズに応じて多様な形態で運行する運送サービス
	自家用有償旅客運送	既存のバスやタクシーのみでは十分な移動サービスが提供されない地域において、道路運送法の許可又は登録を受けた市町村、NPOなどが自家用車を用いて有償で行う運送サービス
	ボランティア輸送	地域の移動手段の確保のため、道路運送法の許可又は登録を要しない地域の助け合いによる輸送サービス

#### 4-3-3 都市機能区域及び居住推奨区域における交通の考え方

##### 1) 都市機能区域

福島駅を中心とした医療、文化、商業、行政、教育などの高次都市機能が集積した区域であり、市内循環ももりんバス、古関裕而メロディーバス、タクシー、二次交通であるMOMORIN（ももりん）シェアサイクル等により相互に補完しあう公共交通ネットワークを構築し、まちなかの回遊性や利便性の向上を図ります。

表 都市機能区域交通の概要

都市機能区域交通	起終点・方面	交通モード
市内循環ももりんバス(100円バス)	1コース・2コース	路線バス
古関裕而メロディーバス	福島駅～古関裕而記念館	路線バス
MOMORIN（ももりん）シェアサイクル		シェアサイクル
タクシー		タクシー

##### 2) 居住推奨区域

幹線軸に加え、広域交通路線、支線交通である一般路線バス、タクシー等との組み合わせで居住推奨区域における日常生活を支える公共交通ネットワークを確保します。

#### 4-3-4 公共交通ネットワークの将来イメージ

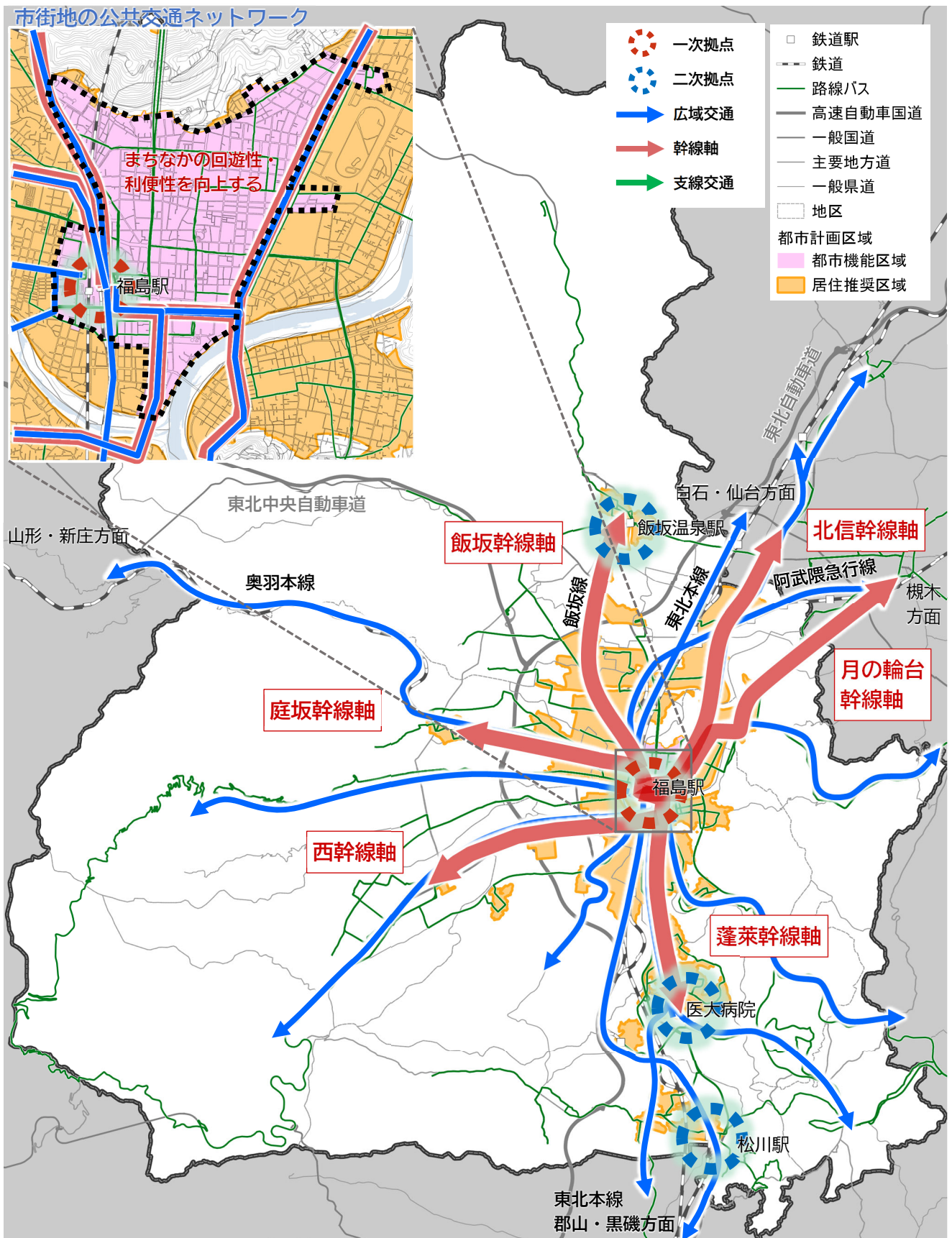


図 公共交通ネットワークの将来イメージ